

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	380100492
法人名	医療法人 椿クリニック
事業所名	グループホーム つばきクリニック
所在地	愛媛県松山市市坪南1丁目5-26
自己評価作成日	H25年 6月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 7 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療と介護の連携を理念とし、常に利用者の健康と慢性疾患の管理を念頭に置きながら、医師、看護職、理学療法士、介護職員等が協力して、その人の残存機能を生かしながら、その人らしい健康的な生活が出来るように援助することができる。医療機関が母体であるために、夜間や休日にも看護職員と院長の連絡が取れる体制をとっており、利用者の急な疾病や状態の変化にも対応ができる。また年2回地域フォーラムを開催し、地域に根付いた施設を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人が運営する医療機関の2階にある事業所は、以前に介護療養型医療施設として使用していたスペースを改修して開設され4年目を迎える。事業所では医療と連携した介護サービスを提供している。法人全体で年2回地域フォーラムを開催しており、地域に根ざした取組みに力を入れるとともに、地域に理解が得られるよう情報を発信している。管理者等は職員一人ひとりの自己評価制度を取り入れ、自主性を大切に考えており、医療や介護に関する専門性を知識を深めることができるよう導いており、相互に信頼関係を築いている。また、職員は自主性が強く、認知症ケアについて知識を深めたいと希望を持っている。今後は事業所として、さらに地域住民との交流を深め、利用者本位のケアに取り組めるよう検討をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム つばきクリニック
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	岡山 由美子
評価完了日	H25年 6月 7日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域密着型サービスについて、事業所全体の勉強会等を通し職員が話し合い作成する。またGH内にも提示し、職員一人一人が意識しながら仕事に取り組み、支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 「利用者が慣れ親しんだ地域で、その人らしくいつまでも元気に安心して暮らせることを目指す」という法人理念を掲げ、介護と医療の連携体制で利用者の生活を支えている。職員は勉強会や日頃のケアの中で理念を確認しており、管理者は利用者を前にして手を抜かない前向きな姿勢で業務に取り組みよう指導を徹底している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 定期的に勉強会、家族会、地域フォーラムを実施し、またブログ、新聞の作成また行事等を通して地域との交流を図っている。地域の文化祭、運動会に積極的に参加している。</p> <p>(外部評価) 日頃から中学生の職業体験やボランティアを受け入れたり、地域の行事へ参加したりして交流を深めている。母体法人の医療機関や近隣の様々な法人各事業所と協力して、年2回地域フォーラムを地域住民の参加協力を得て開催している。フォーラムでは関心の高いテーマを設定し、専門家の講義、防災訓練、高齢者の疑似体験などを行い、地域へ情報を発信している。</p>	今までも法人各事業所と協力して、地域貢献に取り組んでおり、地域の一員としての交流するよう努めていることは高く評価できる。今後は地域住民に対して事業所へ足を運んでもらえるような関わりを持てる取組みの検討をしており、より活発な相互の交流をできるよう職員一丸となって取り組んでいくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 定期的に認知症についての地域フォーラムを開催し地域の方へ発信している。また運営推進会議等を通して認知症に関する勉強をし理解を促している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 概ね2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、利用者、家族、地域の方に参加していただいている。その際、意見や質問を受け、サービスの向上につなげている。また会議録を作成し次回に生かせるものになるようにしている。	会議を工夫して開催しているが、会議の議事録が意見交換の様子の要約やメモの添付のみとなっているため、参加していない方や家族などにも分かりやすい記録方法の工夫をすることを望みたい。
			(外部評価) 運営推進会議は家族、市担当者、地域包括支援センター職員、民生委員、地域住民、ボランティアなどの参加を得て開催している。会議では日常の取組みを映像や写真などを利用して報告したり、防災訓練や認知症の勉強会などを一緒に開催し、参加しやすいよう工夫している。会議を通して、地域の消防団との交流や繋がりができるなどサービス向上に活用している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 地域フォーラムや運営推進会議では参加をお願いし、意見交換を行っている。また必要に応じ訪庁、電話連絡等を行い協力関係を構築している。	
			(外部評価) 運営推進会議には市担当者、地域包括支援センター職員が参加し事業所の報告や意見交換をしている。日頃から気軽に連絡や相談ができるなじみの関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 定期的に勉強会を開催し、身体拘束についての理解を深め、周知徹底している。実際行っていない。	
			(外部評価) 法人全体の取組みとして、身体拘束をしないケアが職員に根付いており、外部の研修や事業所の勉強会などに参加して共有している。日々のケアの中で利用者に対して気になる対応があれば、その都度職員間で声かけをし合うなど確認をしている。玄関は日中解放されており、自由に出入りすることができる。夜間は防犯面を考え施錠しているが、通用口から出入りすることができ、利用者が自由に暮らせるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的に勉強会を開催し、周知徹底している。また自治体、地域密着型サービス協会等の各研修会にも参加し、理解を深め、職員全体で防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 定期的な勉強会の開催、各研修会等に参加し、理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書を用い十分に説明し納得、同意をいただいている。また常日頃から質問等にはお答えできる様にしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者との日頃の会話や支援を通して把握するように努めている。運営推進会議等で家族の意見、要望を聴いたり、アンケートを実施したり、よりよいGHになるよう改善している。	
			(外部評価) 利用者や家族には、訪問時やケアプラン作成などの連絡を活用して、ユニットリーダーや担当職員が必ず声をかけ意向を確認するように努めている。毎年家族に対して意見や要望を聞くアンケートを無記名で実施しており、出された意見は職員間で話し合い、速やかな対応を公表するなどして運営に反映している。また、苦情受付窓口が事業所内と公的機関にあり、サービスに対して意見がある場合は相談できることを利用者や家族等に説明をしている。	今後事業所運営に役立てるため、無記名アンケートをもとに管理者や職員間で話し合った内容を議事録に残し、活用されることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 勉強会、ミーティングの際に意見交換を行い、改善に努めている。また月1回経営者、管理者、リーダー等の代表者が集まり経営会議を行い、意見交換の場を持っている。	
			(外部評価) 日頃の業務を通して、職員同士で声をかけ合うなど気軽に話せる雰囲気づくりをしている。職員からの意見で3か月毎に自己評価表を用い、目標を立て自己反省を行い意識づけをしている。管理者は職員の自己評価をもとに、一人ひとりに確認や助言、悩みを聞く機会を設けている。出された意見は経営者や管理者が参加する月1回の経営会議で意見交換をして対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の努力、勤務状況を把握し、即対応している。また資格習得への支援も行い、スキルアップできる様努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の勉強会、研修会等へ積極的に参加を促し、サービスの質向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議の参加や法人外の研修会、勉強会に積極的に参加し、情報交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に必ず事前訪問を行い本人の思いを確認している。また随時ホームへの見学も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族にもニーズや不安などを確認している。また家族と事業所との協力体制についても説明し理解を得ている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) なるべく早い段階で暫定ケアプランを作成し、サービス開始時には安心できる場となるよう配慮している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活を共に行いなじみの関係ができる様取り組んでいる。信頼関係が築けるよう、コミュニケーションを大事にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の面会時には近況報告し、利用者がよりよく生活できる様意見交換している。また場合によっては電話や郵便物での連絡も行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会に来やすい雰囲気作り、環境作りをしている。行事等で外出した際、自宅に寄る等の支援をしている。 (外部評価) 利用者が大切にしてきた関係や習慣を変わりなく継続できるよう、外出時に自宅に立ち寄ったり、馴染みの場所に出かけるなど支援をしている。また、事業所での生活が新たな馴染みの場所となっており、法人内の他事業所の利用者との交流を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士でトランプをしたり、一つの机を囲んで塗り絵等の作業、調理、家事参加等お互い支えあいながら行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても本人、家族が安心して過ごせる様に他のサービスの紹介など相談、支援している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 食べたい物の希望を聴いたり、日々の何気ない会話、表情、しぐさ等の中から本人の思いを汲み取るように職員一人一人が意識している。またそれを記録に残し、申し送りやカンファレンス等を通して情報を共有し、検討を行っている。	
			(外部評価) 日々のケアの中で利用者との会話を大切にしており、一人ひとりの思いを把握するように努めており、シートに記録して職員間で共有している。職員と利用者、家族等の関係が深まるように努力している。把握が困難な利用者には家族等から情報を聞いたり、利用者の表情や変化を観察したりして、記録や話し合いを行い利用者の思いに沿えるケアにチーム体制で取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 信頼関係を構築する中でアセスメント、記録を行い、情報把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) アセスメント等で、個々の身体状況、生活歴等を把握し、その人らしい生活ができる様に支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) その人らしい生活ができる様、サービス担当者会議を開き、基本的には3ヶ月に1回、また状態の変化に応じて都度職員全員で検討し、ケアプランを作成し実施している。また1ヶ月ごとにモニタリングを行い見直しを行っている。	
			(外部評価) ケアカンファレンスでは利用者に参加してもらい、要望や内容の確認をしており、職員全員で関わるように努めている。利用者や家族の要望をふまえ、現状に即した介護計画を作成している。日々の利用者の様子は24時間シートや経過記録等に詳細に記録しており、毎月のモニタリングに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子や生活の中で気づいたことを記録しケアに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 法人内にデイケア、小規模多機能施設、高齢者住宅があり、本人の状況、ニーズに合わせて様々なサービスが提供できる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの受け入れ、防災訓練等に地域住民、民生委員の方にも参加していただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の意向を尊重し受診できる様支援してい る。緊急時も適切な対応が取れる体制を整えている。	
			(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医や専門医を、家族等の 協力を得て受診できるように支援している。母体法人 の医療機関との医療連携があり、緊急時対応等バック アップ体制も整っており、利用者や家族は安心して利 用することができる。管理者は看護師で、医療知識を 取り入れた職員教育に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常勤で看護師がいるため情報交換しながら連携して支 援できている。また、訪問看護師ともスムーズな連携 が取れている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 医療機関と連携を密にとり安心して過ごせるよう配慮 している。また入院時には適宜面会し、現状を把握す ると共に、看護師等の病院関係者とも情報交換を行っ ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りの指針、マニュアルを作成し、入所時に説明し 家族の意向を確認している。 看護師や訪問看護と24時間連絡を取れる体制をとっ ている。	
			(外部評価) 事業所では看取りの指針を定めマニュアルを整備して おり、入所時に事業所としてできないことできないこと を利用者や家族に説明し、意向を確認している。利用 者の状況に応じて利用者や家族の意向を確認し、段階 に応じて話し合いながら支援している。医療機関との 24時間連携がとれるよう体制を整えており、安心し た終末期を送れるよう支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に法人内外の研修会や勉強会に参加し、またその都度病気についての症状について調べ、学び、スキルアップにつなげている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災マニュアルを作成し、年2回の定期的な避難訓練、年1回の風水害対策訓練を実施している。運営推進会議時の議題として取り上げることもあり、その際消防署員、地域住民や家族にも参加していただき、訓練を実施している。今後、地区の自主防災組織の方も参加していただける予定。 (外部評価) 年2回の避難訓練のほか、運営推進会議や法人全体で行っている地域フォーラムの機会を利用して、災害対策について学んだり、地域に向けて情報発信している。訓練などを通して、新たに地域の消防団員から災害時の協力が得られるなど関わりが深まっている。また、あらゆる災害を視野に入れた訓練を実施しており、緊急連絡網を活用した訓練や備蓄の用意を行い職員の災害に対する意識を高めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の尊厳を傷つけないケアや声かけに配慮している。記録物の保管、大勢の目に触れる廊下等に個人を特定できる物を置かない等、プライバシーの保護にも意識的に努めている。 ブログや新聞に写真を使用する際は同意書をとるようにしている。 (外部評価) 母体法人ではブログを発信しており、利用者の写真を掲載する場合は同意書を取り、利用者や家族に確認している。また、個人情報に関する同意書を取っており、書類や写真等は厳重に取り扱っている。利用者を敬い、尊厳やプライバシーを損ねないようにさりげない声かけや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 常にコミュニケーションを重要と考え、言動だけでなく表情やしぐさ等に目を配り、本人の思いを感じ取り、意向に沿う支援を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の生活リズム、個別性を尊重し、体調や状況に応じた支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的な美容師が訪問し、日々の身だしなみや服装ができるだけ本人の意向となるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員も同じものを同じ食堂で食べながら、できるだけ自分で食事が食べられるように見守り、必要時には適宜介助している。またできる範囲で調理等にも参加していただいている。また定期的にアンケートをとり、リクエストを聞いている。	
			(外部評価) 利用者と職員と一緒に食卓を囲み、和やかな食事の時間を過ごしている。また、利用者は下準備や片付けなどできることを手伝っている。利用者は日々の食事を楽しみにしており、食べたいもののリクエストを聞き、職員は希望に柔軟に沿えるように一週間毎の献立を作成し、旬の野菜等を使ったバラエティ豊かなメニューとなる工夫をして調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量や水分摂取量には気をつけながら支援している。排尿量、水分摂取量の記録をつけ、場合によっては体重測定や状態を観察しながら支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアは徹底し、清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄のパターンを把握、記録し、トイレでの排泄が可能な利用者は適時及び適宜トイレ誘導を行っている。前回指摘されたリハビリパンツから普通のパンツへの移行を行い、自立に向けた支援を行っている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンをアセスメントで把握し、個人のリズムを大切に声かけや誘導をしてトイレで排泄しやすいよう支援している。また、日頃から職員間で利用者の自立に向けた排泄支援ができるよう話し合いをしている。排泄チェックや福祉用具等を工夫して使用することで、日中にリハビリパンツから布パンツとパット使用に改善できた利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事や水分、運動量等に気をつけながら便秘を予防している。必要に応じて乳製品を使用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 3回/週、曜日を基本とし、利用者の体調、希望、皮膚の状況、入浴の間隔等考慮し、臨機応変に対応している。	
			(外部評価) 利用者は週3回を基本として入浴することができる。安全面を考慮し入浴時間帯の設定はあるが、入浴剤を使うなど、利用者がリラックスできるよう工夫をしている。入浴の苦手な利用者には無理強いせず、声かけや関係づくりなどをして対応している。入浴できない時には清拭や陰部洗浄を実施し清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動、本人の意向等、個々の状態に応じて、安眠できる様支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医師の指導により薬の作用、副作用、用法等を理解できている。また日々の観察を行い、報告、相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 調理、洗濯物の片付け等への参加、季節ごとの行事を提供したり、日々の生活が充実するものとなるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の希望を取り入れながら、状態、気候等に応じて散歩や日光浴、買い物等外出する機会を持っている。外出時は人(学生)が多い場所、草花が多く咲いている所等、気分転換や刺激が得られる様に工夫している。また家族への行事参加をお願いしている。	
			(外部評価) 日常的に買い物や散歩等の外出支援をしており、地域住民との挨拶や会話などで気分転換を図っている。利用者の顔なじみの関係である法人内の他事業所と合同で行事を開催したり、利用者の希望に沿った外食など外出を、家族の協力を得ながら楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 同意の下、家族から預かりGHで管理している。また毎回出納帳に記録をつけ、定期的に家族に開示している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 認知症自立度判定も高くあまり行えていないが、年賀状の返信は行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節に応じた壁絵の飾りつけを行ったり、常に環境を整え、利用者にとって居心地がよい場所になるよう心がけている。また整理整頓を心がけ、居心地よく生活してもらえるようにしている。</p> <p>(外部評価) 共有空間のリビングは温度や湿度の管理が行き届いており快適に過ごすことができる。日中は利用者一人ひとりのお気に入りの場所で自由にくつろぐことができる。テーブルや壁には利用者がレクリエーションで作成した季節の作品が飾られ、和やかな雰囲気づくりがされている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングではそれぞれ定位置があり、状況に応じて対応している。常に声かけや気を配り、居室に誘導する等、臨機応変に対応している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族にも協力してもらい、本人にとってなじみのあるもの使い慣れたものを持ってきてもらうことで、これまでの生活が継続できるように支援している。</p> <p>(外部評価) 介護療養型医療施設から改修された居室は、ゆったりとした広い空間で解放感がある。居室にはベッドや冷蔵庫付きユニット家具が備え付けられている。利用者の使い慣れた好みの物を持ち込むなど、自由に楽しむこともできる。居室は清潔に保たれ、心地よく過ごせるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 自分でできることはしてもらい、利用者が普通の生活を送ることが出来る様に支援している。またそのための個別の支援、環境等を工夫している。</p>	